

## 『家庭教育セミナー』のご報告

若葉小PTA会長  
文化厚生委員会委員長

11月25日（金）若葉小PTA文化厚生委員会主催『家庭教育セミナー』が行われました。講師には、昨年度もお話しを伺い大好評だった「京美カワード先生」をお願いいたしました。簡単にお話しの内容と、参加者にご協力いただいたアンケートのお声等をご報告させていただきます。

〈テーマ〉地球上どこにいても何度でも成功して幸せになる人材育成  
 ◎子どもの自立と親が出来るサポートについて ◎お小遣い・お金の話  
 ◎子ども部屋の作り方 ◎グローバルエデュケーション（国際教育）について

## ◎子どもの自立と親が出来るサポートについて

- 子どもたちにはたくさんのことを経験させていく。これが「点」となる。たくさんの点をつくってくと、点と点が繋がり線になるように成長していく。
- 18歳で（18歳を自立の年と考えると）いきなり自立していくわけではない。親が援助ばかりしていても18歳になった時に、そこで初めて迷うことになってしまう。「子どものためにやってあげたい」という気持ちを親はこらえなくてはいけない。子どもと「会話（話すだけ）」ではなく「対話（本人・親の考えを主張しあう）」をしながら、今から自立をさせていく。

## ◎お小遣い・お金の話

- 自分の家庭のお手伝いをすることでお小遣いをあげるのはやめてほしい。自分の家のことはそこに住む人間が責任を持ちやらねばならないこと。そこに対価・給与は必要ない。
- 自分のお金は自分で考え遣わせることが大切。しかし、どのような使い方があるかを親が提案することも必要。

## ◎子ども部屋の作り方

- 小学6年生くらいまでは、勉強はリビングで親と一緒にいることをおすすめする。その方が子どもも安心して取り組める。その時に5分・10分でも良いから、親も一緒に座ってあげてほしい。
- 家の中が整っていると子どもの成績は上がる。勉強するテーブルの上には何も乗せない。さっぱりとした環境が良い。

## ◎グローバルエデュケーション（国際教育）について

- 欲しい物や本人の望むことがあった場合には、その理由を言葉にさせる。幼いことからプレゼンをさせることで、理論的（時間配分・勉強配分）に考えることができる。社会へでもプレゼン能力は必須。プレゼンとは、相手が共鳴し・協力してくれる関係を作るために行うこと。この経験をわざとさせていく。そのために、親も話の「聞き方・話をさせる方法」を学ぶ必要がある。
- 「頑張ってる」は言わない。子どもはすでにたくさん頑張っている「楽しんで」を伝えてほしい。「ちょっと待ってて」も言わない。「ちょっと踊ってて」くらいのほうが、子どもも親も楽しい気持ちでいられる。

## 【アンケートより】

- 今、私のやっている方法が合っているんだと思うところもあれば、どうしたら良いかわからないところに大きなヒントを頂けた。育児と自分の在り方の確認とGoサインをもらうことができた。
- 子どもに言葉にすることで脳の回路を作り成功体験をさせるというところ（コーチング）や、ユニークな声掛け参考になりました。「ユネクティッド ドット（点と繋ぎ線とる）」の話も、今後の息子の様子から実感できたら良いなと思っています。
- いつも接する時間の多い母の接し方・言葉のかけ方・母が楽しそうにしていることなどが大事なのだな、と忙しくて忘れがちだったことを思い知らせれました。セミナーを聞いた後家に帰り、とりあえず部屋の中のいらぬ物の整理を始めました。
- 昨年も参加しましたが、京美さんのお話しを聞くと子育てに前向きな気持ちになれます。家族のルールに「家庭の金を使う時には、プレゼンをする」が加わり、娘も楽しそうに話していて、とても良かったです。
- 主人にもセミナーの内容を伝えました。これからの子育てについて話す良い機会となりました。